こども新聞
週刊かほピョンプレス
毎週日曜発行
2026 3/29
河北新報社 TEL.022-211-1111（月曜から金曜）

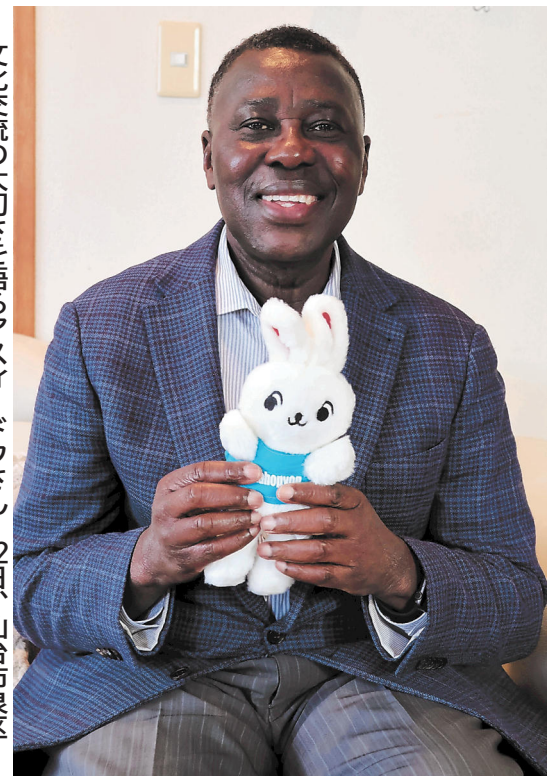
きょうのテーマ

みんなの将来　みんな動こう　みんな知りたい　みんな守ろう　みんなトモダチ

あなたの隣の外国人

日本とアフリカ 架け橋に

文化交流の大切さを語るアスィードウさん＝12日、仙台市泉区



アイザック・ヤウ・アスィードウさん
ガーナ出身／宮城アフリカ協会会長

仙台市泉区のアイザック・ヤウ・アスィードウさんは約40年前、アフリカ西部のガーナから留学生として日本に来たんだ。アフリカ出身者の友好団体「宮城アフリカ協会」（仙台市青葉区）の会長を務め、日本とアフリカの文化交流に力を入れているよ。

アスィードウさんはガーナ南部のアゴナ・ンサバ地区のカカオ農家に生まれました。母は発酵させたトウモロコシで作る伝統料理「ケンケ」を売り、家計を支えました。

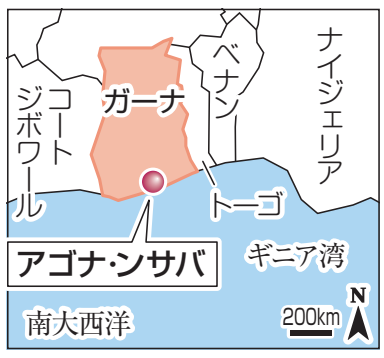
「裕福な家ではなかったので、私は勉強を頑張ろうと思いました」とアスィードウさん。得意科目は数学です。民間の奨学金を得て工学系の大学に通い、製鉄会社に就職しました。

人生の転機を迎えたのは30代前半のときでした。日本政府の奨学金を受けられる試験に合格し、1987年、東北大に進学。93年に同大大学院で博士号を取得した頃には、在学中に来日した妻と子ども4人も日本の生活に慣れ、定住を決めました。2000年に日本国籍も取得しました。

当時、仙台市で暮らすアフリカ人と地域の関わりは薄く、日本の社会や文化を知らずに勉強だけして帰国する留学生も多くいました。

「そういう状況はあまり良くないと思っていました」とアスィードウさん。02年、仲間と宮城アフリカ協会を設立し、老人ホームを訪問してアフリカの音楽やダンスを披露したり、アフリカから来る留学生の相談に乗ったりしました。

昨年は大阪・関西万博の国際交流プログラムの一環で、宮城県利府町とガーナの交流事業を企画。両国の中高生をオンラインでつなぎ、互いの文化について理解を深める機会を設けました。



協会では年2回、情報誌も発行し、アフリカ文化の発信に努めています。アスィードウさんは言います。「アフリカは貧困といった社会問題もありますが、アフリカ人はいつも笑顔で、幸せな人が多いと思います。多くの人にアフリカを身近に感じてもらいたいです」

ガーナは黄熱病研究に尽力した細菌学者野口英世（福島県猪苗代町出身）が亡くなった地です。アスィードウさんによると、日本人がガーナと聞いてチョコレートを連想するのと同じくらい、ガーナ人は日本と言えば野口を思い浮かべるそうです。

この日　何の日

◇31日（火）　電話帳と番号案内が終了

電話番号を調べるときに便利なＮＴＴの電話帳「タウンページ」と電話番号案内「104」が終了するよ。近年のスマートフォンの普及で電話番号の検索方法が多様化し、役目を終えたんだって。

きょうの紙面

2面　ニコ☆プチモデルと体験！
3面　３分チャレンジ
4・5面　わが校わがまち　スクール通信
6面　キホンがわかる　こども英語
7面　投稿特集
8面　かほく防災記者リポート